



アジア州

都市・農村と生活環境からみた南アジア —インドの地理と社会を知ろう—

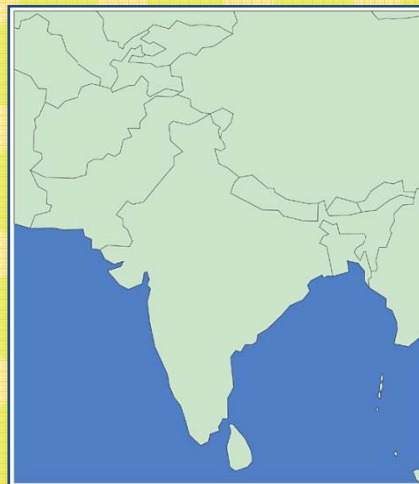
→ ねらい

「都市・農村と生活環境」に関して、地域(インド)の具体的な事実を知る。

→ 学習課題

- インドの人口は、どのように変化しているだろう？
- インドの都市と農村の現状と課題は何だろうか？

→ 学習の見取り図



▲インドを中心とした南アジア

A

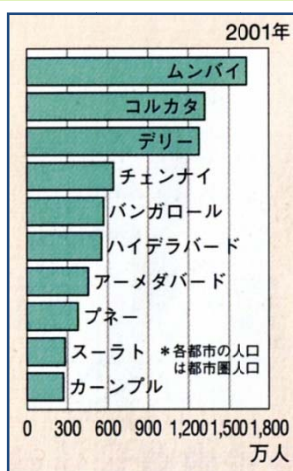
イギリスと ヒンドゥーの影響

インドは 1947 年にイギリスから独立した旧植民地のため、各地にイギリス風の町並みや英語を話す文化が残っています。しかし、国民のほとんどが信仰しているヒンドゥー教、カースト制度、そして土着の言語は、植民地になる以前からこの地に根付いており、今日でも各地の文化の基盤となっています。

B

急速な都市化

インドは、新興市場国 BRICS の 1 つに数えられています。ムンバイ、コルカタ、デリーといった人口が 1,000 万人を超える巨大都市が存在し、そこには、日本のスズキ・ホンダ・三菱の自動車産業や IT 関連企業が進出しています。これらの大都市は、インドの経済成長の拠点となっています。ただし、インドの中心産業は依然として農業で、国民の約 70% が農村に居住しています。



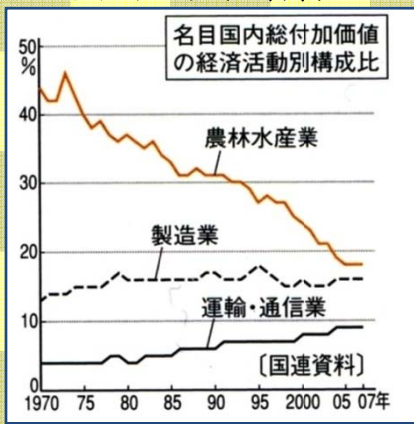
都市と農村の経済格差が大きくなると、人口は農村から都市へと向かうようになります。例えば、首都のデリー、金融の中心のムンバイ、IT 関連の企業が集積するバンガロールなどの都市には、農村から仕事を求めて人口が流入しています。その結果、都市人口は、ますます増加していく傾向にあります。都市人口の増加にともなって、インドの都市の内部と周辺部には住宅地が形成されるようになりました。大都市は、周辺の地域を巻き込みながら都市の規模(面積, 人口など)を拡大させています。



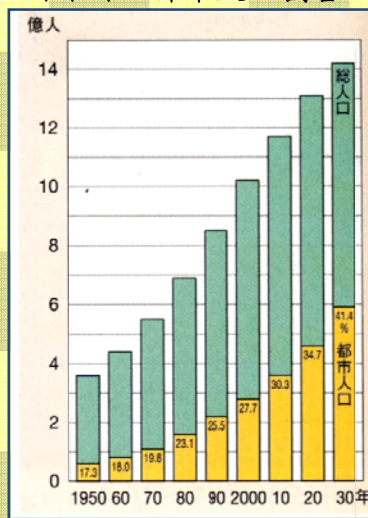
都市に住む人は、みんな企業で働いているのかしら・・・。



▼インドの産業別割合



▼インドの都市人口割合



▼インドの農村部のようす



▼インドの都市部のようす



▲インドのマクドナルド

日本のメニューとは、かなり違うなあ。日本のハンバーガーは、牛肉がメインだけど…



I

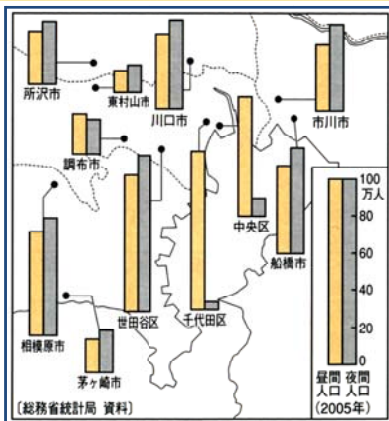
地名・用語を確認する

1. 左の地図に、以下の地名の位置を書き込みなさい。また以下の用語の意味を調べなさい。
地名：デリー、ムンバイ、コルタカ、バンガロール
用語：カースト制度、植民地、BRICS、都市人口

II

事実を比較・分類・概括する

2. インドで認められている公用語をあげなさい。
3. 下の表を完成させ、①都市人口の変化と②第二次・第三次産業就業人口の変化を述べなさい。また①と②の関係を説明しなさい。*の箇所のみ 2007 年の合計を記入。



▲首都圏の昼夜間人口

	総人口(人)	都市人口(%)	製造業と 運輸・通信業 (%)
1970年			
1990年			
2010年			*

4. 都市と農村の景観写真を比較して、それぞれの写真から読み取れることを箇条書きにしなさい。またその結果から、都市と農村の特色を短い言葉でまとめなさい。

III

私たちの生活と結びつける

5. インドのマクドナルドの写真から、日本と比べた「インドラしさ」を探しなさい。また、そのように判断した理由を説明しなさい。
6. インドの都市化と日本の都市化を「首都圏の昼夜間人口」を参考に比べてみよう。





アジア州

都市・農村と生活環境からみた南アジア —インドの地理と社会を捉える概念をつくろう—

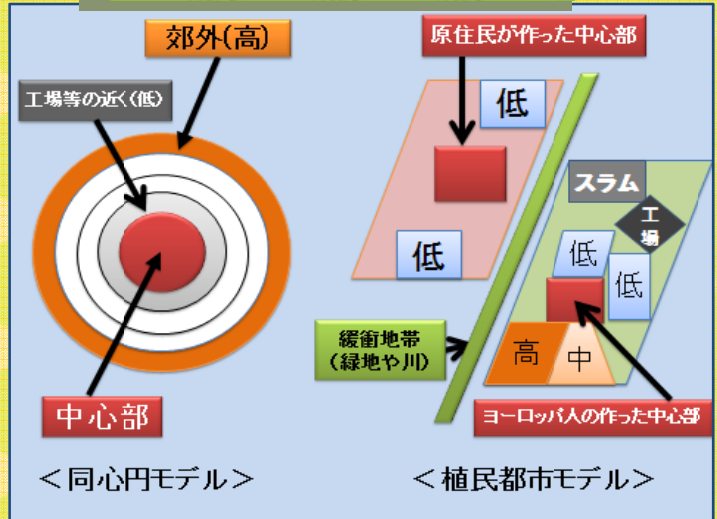
→ ねらい

「都市・農村と生活環境」を説明する一般的な理論を知る。

→ 学習課題

インドの都市は、どのようにして形成されたのだろう？ 世界の他の都市とは、どういう点で異なるだろう？

→ 学習の見取り図



▲都市構造の2つのモデル

A 先進国の都市 (同心円モデル)



▲先進国の都市の航空写真

B 発展途上国の都市 (植民都市モデル)



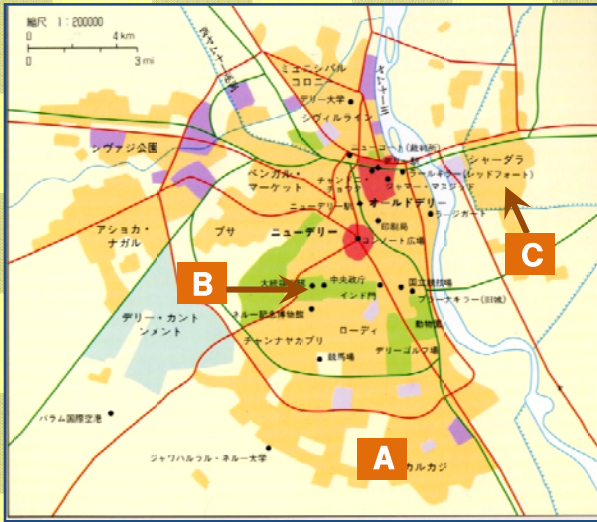
▲植民都市の風景

都市の成長には、いくつかのモデルが提案されています。第1に、先進国の都市を説明するために考えられた同心円モデルです。本モデルでは、都市の中心に、役所、鉄道の駅、オフィスビル、百貨店、博物館・図書館など政治・経済・文化の中核機能が立地し、中心から周辺に向かって、軽工業、下級住宅、労働者住宅、住宅地区、郊外通勤者の住宅へと遷移していく傾向が示されます。住宅地に注目すると、低所得者は、どちらかという都心に居住し、高所得者ほど郊外に居住することが想定されています。

第2は、発展途上国(かつてのヨーロッパの植民地)の都市を説明するために考えられた植民都市モデルです。本モデルは、機能や性格を異にする地域が、同心円ではなく、細切れに混在するようすを示しています。

このような構造は、都市の成り立ちに由来します。植民地時代の都市には、原住民とヨーロッパ人、それぞれの活動の拠点が別々に設けられました。植民地時代には、後者を中心にして、その周辺にヨーロッパ人が必要とする住宅地やオフィス、娯楽場、工場などが建設されました。またヨーロッパ人と原住民の生活圏の間には緩衝地帯(緑地帯)が配置され、両者が交わりは絶たれる傾向にありました。独立後は、原住民が古くからのヨーロッパ人の生活圏に移住してきます。その際にも所得階層に応じた住み分けが行われるために、都市はますますモザイク状に発展していくことになりました。

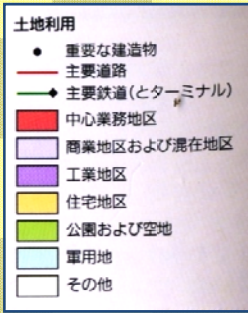




▲モザイク状に発展した都市



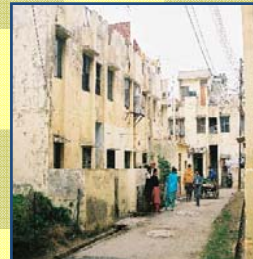
▲同心円状に拡大した都市



▲()商業施設



▲()役所



▲()住宅地

写真と地図上の位置を結びつけてみよう。中心地からの距離はほぼ同じだけど...



I 言葉の意味を調べる

II 事例を例示する, 説明する

街の中を牛が歩いているのは、インドらしい光景ですね。こういう光景が見られる理由を、様々な視点から考えてみましょう。



III 理論を応用する

- 以下の用語の意味を調べなさい。
中心、郊外、同心円モデル、植民都市モデル、住み分け、機能分化
- 下の表を完成させて、デリー(インド)とロンドン(イギリス)の都市の成り立ちを説明しよう。

	同心円都市	植民都市
中心部の数		
都市の広がり方		
中心部と住宅地の距離		
階層・所得による住み分け		

- 同心円モデルでは、なぜ高所得ほど中心から離れて居住することになるのか。理由を推測しよう。
- いくつかの都市を取り上げて、これらのモデルで説明できるか吟味してみよう。反論があれば、具体的に指摘しよう。
- 都市の成長について、他にどのようなモデルが提起されているか、インターネットで調べてみよう。また調べたモデルを、左上のようなイラストに描いてみよう。
- あなたが家を買うなら、都市の中心がいいですか、郊外がいいですか。どちらかを選んで、その場所のメリットとデメリットを整理しよう。





アジア州

都市・農村と生活環境からみた南アジア —概念を活用してインドの課題を考えよう—

→ ねらい

一般的な理論を通して、「都市・農村と生活環境」に関する地域(インド)の課題を知る。

→ 学習課題

インドならではの都市問題ってなんだろう。
なぜそういう問題が起きているのだろう。

→ 学習の見取り図



▲デリーの地図

太郎さんと花子さんは、夏休みにでかけた海外旅行の思い出を話していますよ。



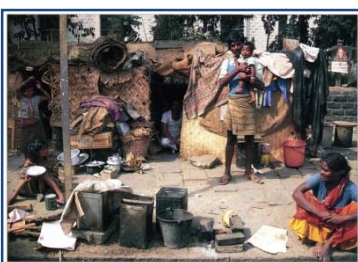
A 先進国の都市 問題とその対策



▲イギリスのニュータウン

太郎さんはイギリスに行きました。ロンドンの中心部で買い物やビッグベンを見た後、電車で郊外に移動しました。車窓を眺めていると、数分で高いビルや工場はなくなり、徐々に緑地や公園、住宅地が増えてきました。職場と住宅地をつなぐ電車や緑もあり、暮らしやすそうだという印象を受けました。太郎さんは、帰国後、ロンドンの景観について調べてみました。すると、ロンドンでは、かつて人口の過密や無秩序な開発が問題になったこと、これらの問題を解決するため、各地域の開発を規制する法律をつくったり、郊外にニュータウンを建設して人口の分散をはかったこと、などが分かりました。

B 途上国の都市 問題とその対策



▲インドのスラム

花子さんはインドに行きました。首都デリーを歩いていると、いろいろな光景に出会いました。高いビルをみたかと思えば、すぐ近くにはスラムが広がり、高級住宅があったかと思えば、道路をはさんで上下水道のない住宅がある、といった感じです。公共交通機関が整っていなかったり、道路が舗装されていないところも見かけました。大都市だけど、東京と比べると、都市の成り立ちが違うなあ、という印象です。花子さんは、帰国後、インドの都市について調べてみました。すると、計画的な都市づくりや、外国の援助を得てインフラを整備する動きがあることが分かりました。



▼大都市での道路工事



▼日本の支援(ODA)によって整備された地下鉄



▼日本からインドへの支援を伝える記事

インド支援 日本着々

新工業国(BRICS)の一角として台頭するインドに対し、日本政府がインフラ整備の支援など経済関係の強化を進めている。対中包囲網の意味合いのあった安倍前政権時代と異なり、経済界の実情を踏まえ、実務的な関係づくりを目指す。(ニューデリー=塚本和人、小暮哲夫)

日本の援助で建設されたデリー地下鉄。車内は快適で市民にも人気だ(ニューデリー、小暮哲夫)

高村外相訪問 企業進出、3年で倍 新借入額を表明

ニューデリー中心部の地下鉄駅。自動改札口が並び、行き先を配す電光掲示板が光る。日本の地下鉄でもめくりだした地下鉄「デリー・メトロ」は98年から日本の円借款(総額約3800億円)でつくられた。設備や大規模な乗客数をため導入、1日の乗客数は約22万人。デリー市民の足として定着しつつある。インド訪問中の高村外相は4日金談したチタム・パラム財団に「インフラ整備はインド側の様々な取り組みを支援していきたい」と表明。シン



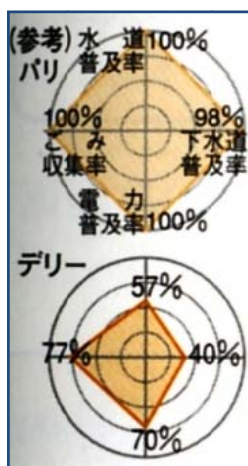
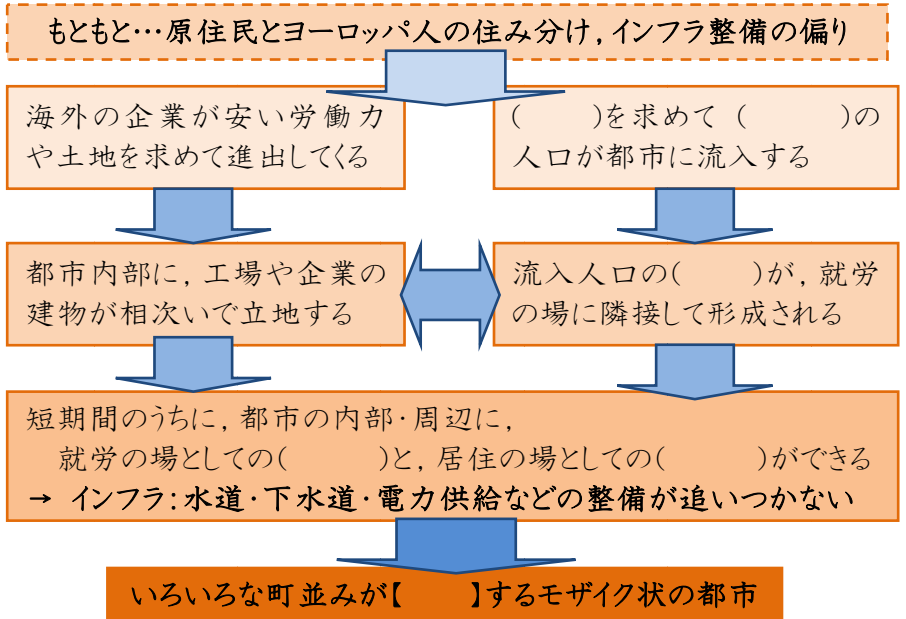
日本にはどのような都市問題があるかな。あなたの住んでいる町ではどうだろう？ロンドンやインドの例と比較してみよう。

I 言葉の意味を調べる

- 以下の用語の意味を調べなさい。
都市問題、無秩序な開発、ゾーニング、ニュータウン、スラム、ODA、インフラ(ストラクチャ)

II 原因・影響を推論する

- 花子さんは、なぜこのような光景に出合ったのでしょうか。下の図を完成させて、理由を説明しなさい。



▲先進国とインドのインフラ整備率の比較(1993年)

III 予測・意見を主張する

- インドでは、都市問題の解決に向けて様々な取り組みが行われている。これらの解決策には、どの程度の効果が期待できるだろうか、あなたの予測とその根拠を述べなさい。

